

明けましておめでとう御座います。その語源は「愛で」「甚し」とあり、この上なく素晴らし  
い、とても言いましょうか。お年玉を頂けた方もたくさんみえると思いますが、お年玉は「歳の  
初めに授かった大切な贈り物」という意味合いがありますから大切に使ってほしいと思います。  
令和も三年目に入りました。コロナに負けず、Step UP（ステップアップ）していきましょう。  
たかたかし氏が作詞された「凜りんとして」の中に「日が昇り・日が沈む・春が来て・夏が行く・生き  
とし生ける・ものすべて・命にかぎりは・あるけれど・花のように・心を開き・私は咲きたい・凜  
として」という歌があります。人生には幾度か転換期がございます。後藤組組長の後藤忠政氏が  
発心され僧侶になりたいと申し出がなされました。得度（坊さんになる）儀式に天台宗から待っ  
たがかかるも、師僧と兄弟子の力添えで、平成九年四月二日に何とか許可が下りたそうです。  
組長の出家ですから、もめたそうです。浄発願寺にて得度式を挙行、僧名忠叡を授かりました。  
私も彼の思いに対し、感銘を受けました。誰でも救われると説く、我が浄土宗でも、もめたと思  
います。宗旨と実際は立前と本音のようなものです。法身を抱くものは、自ずと道は開かれます。  
彼が言うには「バブル時代から金・金と欲望の塊になってしまい、親を敬うとか年寄りを大切に  
する、基本的な価値観が崩れた。人として守るべき最低限の常識をバカにしたり、普通の言葉が  
通じないような人間がいっぱい出てきた。企業のモラルも変わってしまった。以前は日本の文化  
にたいするプライドがあった。バブルが終わっても考えは変わらなかった」と残念な思いを書い  
て見えます。表裏一体の社会、贖うべきこともたくさんあると思います。

五木寛之氏は自己の尊厳そんげんは自分という者は、世界にたった一人の存在であり、ほかに同じ者が  
いない絶対希少価値があり、ダイヤモンドなど問題にならない。仏教の祖、釈尊の「天上天下唯  
我独尊」を、自分はそう解釈していると、又、彼の人生哲学の一つには宗教の光が射すことで、  
あらゆるものがくつきりと魅力的に、いきいきと立体的に見えてくるのではなからうか、と思っ  
と、いつてみえます。日本では明治時代に廃仏毀釈運動が起こり、寺が焼かれたり、仏像が壊さ  
れるといった事もありました。不遇ふぐうの時代が終わわり、現在では家に神棚と仏壇が同居して神佛習  
合の敬いが戻っている家もたくさんあります。信仰という目には見えない心の世界に心の闇を消  
し、心の病に落ちないようにと慮おもんばかり、仏道の道に少しでも足を踏み入れて頂きたいと思います。  
幸田露伴氏は「運命」の中で「人には生まれつきの運命というものがある。それを否定するわ  
けにはいけない。しかし、人生の全てがその運命に支配されるとみるのも誤りださい者から決ま  
っているものを先天的運命と呼ぶならば、人の心がけや努力、その行いから生じてくる人生の姿  
は後天的運命といってよい」と、運は自己の研鑽けんさんと目に見えない佛力を以って上昇が可能に成  
ると思います。最近TVで葬儀は寺でとのCMが流れています。勿論、当山でも葬儀を行っていま  
す。今更何を言っているのか、面映い限りです。